

水害発生時(9月9日～11日)の流れ

9月9日(水)
午後4時36分 結城市に「大雨(土砂災害、浸水害)・洪水」警報発令
午後11時 災害対策本部設置
午後11時20分 鬼怒川 氾濫危険水位発令

9月10日(木)
午前1時 自主避難勧告(絹川地区全域)を発令
午前4時10分 絹川・上山川全地域に避難勧告を発令
午前6時31分 河岸地内にて越水を確認
午前6時43分 上山川排水樋管付近で越水を確認
午前7時45分 結城市に大雨特別警報発令
午前8時 山王橋付近で堤防の漏水を確認
午前8時30分 山川地区の一部(芳賀崎・浜野辺・山王・水海道)へ避難指示発令
午前9時10分 絹川・上山川地区全域を避難勧告から避難指示へ変更
午前9時35分 茨城県経由にて自衛隊へ救助依頼
9月11日(金)
午前8時15分 大雨特別警報解除(大雨注意報に変更)
午前9時15分 避難指示解除



災害ボランティアセンターの設置(絹川小学校)



消防団員などによるボランティア活動



浸水した鬼怒商業高校(小森)



浸水によりえぐられた農地(山王)



避難所の様子(かなくぼ総合体育館)



道路の冠水(久保田)

今回のような場合は、多目的運動場など広い場所を緊急の駐車場として活用できればよかつたのではないのでしょうか。また、高齢者や車を運転できない方もいるので、バスなどで避難場所へ移送すること必要だったように感じます。

遠井

私の反省点としては、絹川地区の多目的集会施設にあった車いすがパンクしてしまっていて。この車いすは、地域の皆さんに利用していたように社会福祉協議会で設置しているもので、



今回は緊急でしたので使用しましたが、日ごろから点検や整備をしなければならぬと痛感しました。また、被害状況や支援内容などについて、広報紙やホームページには掲載されていたかと思いますが、高齢の方はホームページを見る機会が少ないので、お知らせ版などにも継続的に掲載することも必要かなと思います。緊急時はどこも混乱しますので、なかなか情報が入らないときもありま

小島

私も、困ったことはたくさんありました。2011年の東日本大震災のときは班長として活動して、今回は分団長の立場で活動しましたが、災害対策本部から私のところに連絡がきて、

それを分団員に伝える、その意思伝達の難しさを改めて痛感しました。

例えば、上山川地区に避難勧告が出された際、どこまで対応の範囲を広げていいのか、その辺りの判断が難しかったです。一例をあげると、畑を見にきた高齢の方の軽トラックが取り残されてしまい、膝ぐらいまで水がきてしまっていました。消防団員が助けに行つたのですが、軽トラックも持っていきたいという話になり、分団長の私が対応を判断しなければなりませんでした。そのときに、近所の方がトラクターを出してくれて、これで軽トラックを引っ張つていくことになったのですが、その間にみるみる水位が上昇し、腰まで浸かってしましました。道路と畑の見分けがつかなくなつて、どうしようと思つていたときに、近所の方が舗装の道路をトラクターで先導してくれて、高齢の方を救出できました。本当に地域の皆さんの協力があつたからこそ、活動ができたんだと思

います。

あとは、避難所ごとに対応が違つたような話も聞きました。また、トイレが和式しかない避難所もあつたようで、高齢の方は大変かなと思いました。

今回の水害で、地域内の危険な箇所も認識できましたので、分団員に伝えていきたいと思っています。

市長

皆さんのお話をお聞きしていると、今後ますますこのような非常事態に備えていかなければならないの思いを強くしています。北島さんのお話にもあつたように、鬼怒川のバイパスや遊水池、調整池を作るような大きなプロジェクトも、今後必要になつてくると思いますね。

また、平成28年度に市内全域で整備されるデジタル防災行政無線ですが、鬼怒川沿いの地区はすでに整備済みでしたので、今回の災害で活用しました。しかし、強い雨音で打ち消されてしまつたのか、

全く聞こえなかつた、聞き取れなかつたというお声をたくさんお聞きしました。市内全域で約12,000人に避難勧告を出しましたが、そのなかで実際に避難されたのは約1,200人程度です。約1割の方しか避難されていない現状で、情報を伝えるのがまだまだ十分でなかつたような気がします。

防災行政無線は、電話やホームページなどで放送内容を再確認できるようにしていきますし、平成27年度中には全自治協力員のご自宅に個別の受信機を配置する予定です。市民の皆さんにすぐに情報提供ができるよう対策を進めていきたいと思っています。

